

令和元年度 明石市地域自立支援協議会

くらし部会 レポート Vol.35 令和2年2月20日

発行元：明石市地域自立支援協議会 くらし部会事務局（明石市基幹相談支援センター）

住所：明石市貴崎1丁目5番13号（明石市立総合福祉センター1階）

電話番号：078-924-9155 ファクシミリ：078-924-9134

【意見投稿用アドレス】 akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています。

みなさまこんにちは！「ヘルパーのつどい」です。

昨年12月5日に開催致しました、介護技術研修リスクマネジメント ～現場で活かせる研修 vol.6～についてレポート致します。

今回は「障害のある人へのより良い介護や支援のあり方を考える ～頸髄損傷者の立場からヘルパーに伝えたいこと～」と題し、介護保険と障害福祉サービスの併給を受けながら、単身で生活されている兵庫頸髄損傷者連絡会会長の三戸呂 克美氏を講師にお招きし、頸髄損傷者の立場から、障害のある人への介護や支援において、ヘルパーに理解を深めて欲しいことなどをお話頂きました。当日は業務時間終了後という時間帯にもかかわらず、32名の方にご参加頂きました。

三戸呂さんとサポート役の
ふらふ倉八さん

三戸呂さんは約40年前、ラグビーをしている時に頸髄を損傷し、介護が必要となりましたが、当時は制度が整備されておらず、知り合いの保健師や友人・知人に助けをもらうも、その体制を維持することは難しく、日常生活に大きな不安を感じたそうです。その体験を踏まえ、頸髄損傷とはどのような障害かを、二次障害も含めて具体的にお話下さいました。講演の後半には、三戸呂さんが自宅でヘルパーの支援を受けている実際の場面を撮影した動画が投影され、介護の様子やコミュニケーションの取り方、またハード面（天井走行リフター）についても、見て学ぶことが出来ました。最後に三戸呂さんから、「利用者が思っていること」と「支援者に伝えたいこと」を聞かせていただきました。

利用者が思っていること・・・「我がままと言われたくない」、「嫌われたくない」、「相手の顔色を見てしまう」、「頼みづらい」、「自分さえ我慢すれば・・・（結果ストレスをため込む）」。

支援者に対して伝えたいこと・・・「話をよく聞いてほしい」、「（経験だけで）勝手に物事を進めないでほしい」、「威圧的な態度を取らないでほしい」、「あやふやな情報を教えないでほしい」、「他の人と比べないでほしい」、「症状（障害）を試さないでほしい」、「問題を解決するためには当事者にも相談してほしい」、「障害者が不利益を被っている場合には同じ当事者として問題解決に向けて支援してほしい」。これらの思いは三戸呂さんだけでなく、支援を必要している人に共通する思いとして、支援者側

が真摯に受け止めなければならないことだと思います。貴重なお話をしてくださった三戸呂さんにこの場を借りて改めて御礼申し上げます。

ヘルパーのつどいでは、今後も実技研修や当事者の声を聴く研修などを行っていきたく思います。来年度もどうぞよろしくお願い致します。

